

「最後に：言いたいこと」

2003.5.16 荻野晃也

【1】全原連とは：「私は昔も今も全原連メンバーであることに誇りを持っている！」
「全原連」を知らない人々が多いし、評価しない人もいるが、このような「科学者集団」が存在し続けていることだけは、この最後の機会に「はっきり」と言っておきたい。

「表面に出ていない」からといって「存在していない」わけではない。歴史は捏造され
てはいけないからだ。

「大学反乱・若者・科学者・研究者・専門家・原子力・環境問題・住民運動」との
葛藤の中でホソボソと運動をし続けた「科学者集団」：『幻の全原連』

「アカデミズム派」「住民運動派」「政治重視派」「個人生活重視派」といった具
合に色々な人々の集合体だが、相互信頼だけは極めて強い：『血盟的専門家集
団』

「古い科学者集団・運動家との相違」「若者の少ない集団」：『大学闘争悩み集
団』

「取り込み(?)」「メンバー調査」の危機などに対処：『秘密の科学者集団』

「権力への僅かな(?)迎合路線も拒否」「裁判は限定協力」：『潔癖専門家集
団』

メディア・政治路線・学会などへの協力に限定的：『気の弱い科学者集団』

目立ちたい人々の多い中で、隠れるように行動している集団：『自己満足集団』

権力構造と日常的に接している事への嫌悪感：『自己嫌悪専門家集団』

「住民運動を影で支える」ことを重視した集団：『日陰的専門家集団』

研究者・専門家であり続ける事を忘れなかった：『研究大好き集団』(私だ
け?!)

反安保世代と全共闘世代とが大学紛争時に意気投合した集団：『悲しい専門家集
団』

批判されても忘れられてもニコニコ笑顔(?)の集団：『悟りの境地専門家集団』

見果てぬ夢を追い求め続けている「科学者集団」：『ロマンチック科学者集団』

【2】研究と反原発

研究と反原発運動との両立：「1日は24時間しかない」ことへの焦りと悲しみ、
当初から『反原発』を使用していた意味、宇井さんの「さらば東大」の影響、学生
の支援と指導・就職、権力側からの誘惑(RI事件)、「研究の合間に反原発」から
「反原発の合間に研究」へ。研究の楽しさ：クラスター研究と加速器質量分析。
住民運動は良心的研究者を殺してはいないか?：「研究者への過大な期待は持たない
で欲しい」「専門家とは何なのか?：地震問題で直面(活断層説に批判)」「専門
家にさせられる事の苦痛」「専門家が裁判に関わる事の残酷さ」。「最後(定年)
まで精神的・肉体的に持続できた」ことへの感謝：電磁波をも頑張ろう!!

TMI事故とチェルノブイリ事故：「TMI事故」の方が衝撃だった理由。チェルノ
ブイリ事故と私：放射能の測定(窪川)、輸入食品、アウシュビッツ年表、ツアー。

【3】反原発から電磁波問題へ

電磁波問題に取り組む背景：サイクロトロン(RF問題)、放射線と電磁波(1975
年)、TMI事故調査とワルトハイマー論文(1979年)、伊方訴訟が終われば
「研究バカになりたい」：それを砕くチェルノブイリ事故。電磁波も放射線の仲間。
反原発に関わる科学者・専門家は多いが、電磁波問題は一人もいない現状に危機感。
「週刊現代」の記事への反響、「全日農との付き合い」と「ルーテル教会の質問状」
「進歩と改革」「技術と人間」への連載、「高圧線問題全国ネットワーク」の結成、
本の出版。住民の苦痛を共有：反原発運動の1970年頃と同じ。「電磁波問題の
第一人者(?)：逃げれなくなってしまった。見果てぬ夢は「原子核研究だっ
た?」

環境問題の一つとしての電磁波問題

近代科学技術への具体的批判、環境問題思想としての「慎重なる回避」「予防原則」、地球環境と電磁波問題、子供・胎児と電磁波問題、死産死の男女比問題が急務。

WHOと電磁波問題（クライテリア：2003年に低周波、2006年に高周波）
政治問題化する電磁波問題：原発問題の1975年前後と同じではないか？住民の要求もあり「電磁波環境研究所」を設立：「おおらかに何でもしよう！」と決心。